



三杉会とは

昭和57年10月24日に待望の同窓会館が竣工し、建部大社の御神木である三本杉にちなんで「三杉会館」と命名された。  
 また、平成5年6月13日の臨時総会において、「瀬田工高同窓会」は、瀬田工業高等学校同窓会「三杉会」と改称し、会報も「三杉会会報」となった。

三杉会事務局

〒520-2132 滋賀県大津市神領三丁目18番1号  
 TEL(077)545-1177(事務局直通)  
 FAX(077)545-1177(事務局直通)  
 E-mail setatech-h.dousou@pref-shiga.ed.jp  
**瀬田工業高等学校**  
 TEL(077)545-2510(学校代表)  
 FAX(077)543-4872(学校代表)

会員数 (令和5年4月現在) 24,519名



瀬田工業高等学校  
同窓会三杉会会長  
奥村 功  
(昭54工電)

ご挨拶

同窓会員の皆さまには、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は、同窓会活動に對しまして、ご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が日本で確認され3年が過ぎ、日々の生活が早く戻ることを願うところです。同窓会活動では、感染拡大など影響を受け活動縮小を余儀なくされましたが、徐々に活動を戻しながら、昨年7月16日に理事会を開催しました。理事の皆さんと久しぶりに再会が出来ました。理事会では、今後の活動について確認をさせていただきました。また同じ日に高校野球滋賀県大会の決勝戦が行われており理事会終了後、理事の皆さんと一緒にスマホ中継を観ながら後輩達の活躍に「拍手」で応援しました。その後、役員全員が工場見学をおこない、担当科の先生から説明を受け、県が購入のドイツ製の最新

新器械などが導入されました。「最新技術の取入れは、これからの物作りに必要不可欠です。生徒に教える前に、教職員も最新技術の習得が大変です」と伺いました。日本を支えるエンジニアの育成に今後もご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍の影響で、入学式・卒業式・文化祭など同窓会からの参加は無くなり、生徒とのコミュニケーションが取れない状況です。5月8日にコロナウイルスは感染症5類に変更されました。同窓会としては、各地域の同窓会・職場会・OB会の活動が活発に再開されることを願うところです。

今年も卒業生(264人)が同窓会に加入され、現在の会員総数は約25,000人です。初代先輩方は100歳に近い方までが登録されています。

今年度は「同窓会会員名簿」を発刊の年です。この会員名簿は母校とつなぐ架け橋として、瀬田工業高校同窓会三杉会の地域の活動やOB会・職場会の会員の親睦や友との思い出を深めていただければ幸甚であります。

末尾となりますが、母校のますますの発展と会員の皆さまのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



校歌

一、天雲なびく 比良の嶺遠か  
 望みに燃ゆる 若きいのちよ  
 涯なく高き 真理を求め  
 精しく深き 業究めつつ  
 朝夕つどふ 学びの窓は  
 瀬田工高 吾等の光

二、永劫澄みわたる 湖うけて  
 流れさやけき 瀬田川近く  
 喜び憂い 互に分ち  
 たづさへ励む 自治のまどるに  
 見よ咲き薫る 学びの園は  
 瀬田工高 吾等の誇

令和5年度 滋賀県立瀬田工業高等学校同窓会三杉会 定時総会開催

令和5年7月2日(日) 10時

同封の案内をご覧ください

# ご挨拶



校長  
獅子堂 秀雄

三杉会会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育活動に格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このたびは瀬田工業高等学校の校長に着任いたしました獅子堂秀雄と申します。微力ではございますが、諸先輩方が築き上げてこられた瀬田工業高等学校の伝統をしっかりと受け継ぐとともに、社会の変化にも適切に対応しながら、全力で学校経営に努めて参る所存でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、5月に「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」へ引き下げられました。昨年度まで、いろいろな行事が縮小や中止を余儀なくされてまいりましたが、今年度からは、ウィズコロナとして感染症対策は行っていたうえで、コロナ以前の活動が戻ってくることを考えております。

コロナ禍の中ではありましたが、全ての県立学校では通信環境の整備が進められ、令和4年度の入学生からは、BYOD(個人購入)による一人一台端末(タブレット型PC)が導入されています。今後、デジタル教科書やデジタル教材が普及し、ビッグデータとして学習データの利活用が進んでいくこととなります。

令和4年度入学生から、高等学校では新学習指導要領が実施されています。この学習指導要領は、子どもの「生きる力」の育成を目指し、資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理され「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。

また、国の中央教育審議会の答申では、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」、先行き不透明な「予測困難な時代」において育むべき資質・能力として、「一人一人の児童生徒が、自分のよきや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」ができるようにすることが必要」とされています。学習指導要領を着実に実施すること、ICTを活用することにより、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を実現することが求められています。

昨年度の会報でもお伝えしましたが、本校の各工業科の施設・設備が、国の事業で更新されました。教職員が研修を重ね、実習で活用しております。また、3年生で取り組む「課題研究」において、新しい機器を活用した「ものづくり」ができるようになりました。今まで学び蓄積してきた技術と新しい技術とを上手く組み合わせ、新しいものを創造するような取り組みを進め、生徒が協働的で深い学びができるようにしてまいりたいと考えております。これらの機器をしっかりと活用しながら、社会の担い手として、主体的に学び続け、課題解決に向け粘り強く取り組み、社会の変化に対応できる人材を育成してまいります。三杉会会員の皆様におかれましては、学校近くにお越しの際は、是非新しい機器(5軸のマシニングセンターや金属3Dプリンター等)をご覧いただければと思います。

部活動においては、野球部が令和4年度秋季近畿地区高等学校野球滋賀県大会で準優勝し、近畿大会に出場しました。また、ボート部が第34回全国高等学校選抜ボート大会男子ダブルスカルで6位入賞、自転車部が第46回全国高等学校選抜自転車競技大会4km速度競走で6位入賞を果たしました。今年度も、各部活動において、目標が達成できるよう毎日積極的に部活動に取り組んでおり、全国大会や近畿大会への出場を期待しています。一人ひとりの生徒が、自分の得意とする分野で活躍し、充実した高校生活を送ってほしいと願っています。

瀬田工業高校の今後ますますの発展に向けて、三杉会会員の皆様とともに全教職員が一つとなって邁進したいと考えております。引き続き、本校へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、三杉会のますますの発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

# ご挨拶



(定時制)副校長  
横尾 浩  
(昭59工電)

瀬田工業高等学校同窓会三杉会の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育活動ならびに同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。瀬田工業高等学校定時制の副校長として、2年目を迎えることになりました。今年度も校務運営に尽力する所存でございます。よろしくお願

いいたします。本校定時制課程は長い歴史の中で、瀬田高等学校として多くの卒業生を県内産業界に送り出して参りました。平成26年4月の高校再編により、瀬田工業高等学校定時制として新たな歩みをはじめました。毎年、着実に卒業生を送り出してまいります。令和5年3月には15名の卒業生が4年間の課程を終え、新たな世界へ巣立っていきました。

さて、新型コロナウイルス感染症は、発生より4年を経過しましたが、その勢いを少しずつ弱め、3月にはマスク着用の判断は個人にゆだねるところまでできました。感染者数も落ち着きをみせてきております。5月には従前からある感染症対応へと移行していくようになります。

学校も以前よりの生活や活動に戻っていくと考えられます。昨年度より授業へのBYOD機器の導入が始まり、2年目を迎えることとなります。学校内の通信環境も整備されましたが、通信速度など課題となる点もみえております。今後は、課題を改善して快適な環境で授業を進めていかれることと思います。BYOD機器を使用している授業がよりよいものになることと思っております。特に情報化の流れは、AI技術の導入や研究など、その社会構造が大きな変化を遂げていっております。教育の現場も今後大きく変化していくものと推察できます。私自身、取り残されないように努力したいと思っております。

私事ですが、母校での勤務が2年目を迎えることができました。この機会を大切に、母校に恩返しをできるよう努力していく所存でございます。三杉会会員の皆様、今後ともよろしくお願ひいたします。

# 支部だより

## 守山支部

### 守山支部の現状と、対応について

支部会長 木村 世二作 (昭40全電)



拝啓、三杉会・会員のみなさま  
まにおかれましては、益々ご  
健勝にお過ごしのことと、お  
慶び申し上げます。まだまだ  
先のこととは判りませんが、世  
中あらゆる全ての物を二変させたコロナ禍も、収  
束の方向に向かいつつあるのではないかと樂觀し  
ております。又、ロシアによるウクライナ侵攻は世  
界の秩序を根底から覆す暴挙が一年以上続いて  
おり、だれも止めることが出来ない昨今です。

三杉会・守山支部を立ち上げ早や八年経ちま  
した。その間、会員のみなさま、本部役員さま、  
学校の先生方の多大なるご支援、ご協力を頂き感  
謝申し上げます。ありがとございました。支部  
立ち上げ以降、母校見学会、懇親会を含む総会等  
の行事活動を行って参りましたが、出席参加人数  
は減る一方です。何とか盛り上げねばと、役員が  
集まり、熟考しましたが名案浮かばず、このまま  
では支部活動を維持するのは困難との結論に至  
り、支部解散を決議しました。

コロナ禍で自粛生活の上、母校への意識の変  
化、会員同志の横の繋がりが希薄になってきたの  
が現状です。役員の熱意が足りなかったことを深  
く反省しております。

守山支部は解散しても、母校瀬田工への郷愁は  
変わらず「質実剛健」瀬田工・魂は生涯、心の拠り  
所として持ち続けます。母校の発展と末永い「三  
杉会」の隆盛を念じております。会員みなさまの  
ご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げます。あり

がとうございました。なお今までの守山支部活動  
の残金として四万円あまり貯まっておりますが、  
が、全額本部三杉会へ寄付させて頂きました。な  
お、守山市内在住の会員さまには、関係資料を同  
封させて頂いております。敬具

## 京都支部

### 関西で開催予定の世界 マスターズに出場目指して

高谷 都四治 (昭41全機)

いまだに続く新型コロナ・ウィルス感染を、京都  
支部の総会も開催が出来ず、事務局より第65号  
の原稿を依頼され、支部として何らかの寄稿をと  
思い、支部長より、今でもシニアとしてポートを  
楽しんでる私に原稿の依頼をされました。

「ポート」と言えば瀬田工の印象が深くあり「折  
しも関西で世界マスターズの開催予定を知り併  
せて、私のポートとの関りを少し記したいと思っ  
ます。

昭和38年に念願の瀬田工に入學出来、ルンレン  
の通学路で瀬田の唐橋下をオールの乱れも無く  
格好よく漕いでいく大学生のポート練習に見入っ  
てしまいました。そんな余韻が残っている時にク  
ラブ勧誘があり、「国体に行けるよ。」の一言で艇庫  
について行ったのがポートの始まりです。春先の練  
習は艇に慣れるのが主体で楽しかったです。夏休  
みが近づくとつれ日に日に厳しい練習が増え、夏休  
みも週5日の練習になってきました。

秋口になると二年生の体格も筋肉が付き練習  
もきつくなってポートマンの体に仕上がってきま  
した。が、試合に勝つ喜びを覚えると更に練習に  
打ち込む  
…の繰り返し  
返してし  
た。日本一  
の練習を



しているのだから勝つて当たり前、負けは許され  
ませんでした。

が、残念ながら岐阜国体は僅差で準優勝に終  
わりました。卒業後は各人の就職先で仕事に根性  
むき出しで励み、それなりの先行きが明るくなっ  
てきた44歳の時、だれが言い出した訳でもなく41  
年会で集まり各地の試合に参戦しました。

まだマスターズのカテゴリーも無いころなので  
一般の部で大学生と互角に争い瀬田工魂に火が  
付き四万十川の全日本実業団選手権にも出場し  
ました。15年程41年会でマスターズローイングを  
楽しみましたが、諸般の事情で解散となり、今度  
は京都ポートクラブに入会してシニアカテゴリー  
で楽しんでいきます。

岐阜県、島根県、愛知県、埼玉県、滋賀県など遠  
征試合先での宴会を…3年間の高校ポートがこ  
のように人生を変えました。

2021年世界マスターズはエントリーしてい  
ましたが、中止となり2027年に開催の予定と  
か。三杉会京都支部には、同年の前園俊彦氏(昭  
41全機)、3年後輩の山本善五郎氏(昭44全機)と  
連絡は取れていませんが京都在住のOB諸氏と  
そのうちに一緒に漕ぎたいものです。

最後にメジャーな大会に出てポート人生を終  
えたいものです。

**追記** 現在、ポート部顧問 辻正人氏の指導の  
もとに練習に励んでいる諸氏の頑張りを祈念致  
します。

## 学年同窓会

### 昭39E同窓会

田中(旧姓寺川)弘道 (昭39全電)

昭和39年電気科卒業の同窓会総会を、昨年11  
月4日に守山の平兵衛庵で開催することができ  
ました。新型コロナウイルス感染症で延期となっ  
ていたのですが、大いに親交を温め次回の開催  
を誓い合った同窓会について報告をします。

私達は昨年で喜寿(77歳)になりました。瀬  
田工高卒業後58年にもなります。振り返ります  
と、今から12年前の平成22年から2年毎に5回  
開催し、大いに盛り上がり今回私達幹事が6回  
目を令和2年に開催するべく準備を進めてきた  
ところ、コロナ感染症のために、延期になり令和4  
年になったものです。

短い時間ではありましたが懇親会では、元気に  
お酒やビールを飲みながら大声で自慢話や、健  
康管理、相変わらず体調のことなど、話は尽きな  
いようでしたが、さすがに高齢化は避けられず、  
アルコールの量も減り、若作りしていても、おじい  
ちゃんらしくなってきたなど思うのは、私だけで  
はないようです。

幹事になってわかることは、懐かしいこと、楽  
しみなこと、元気が出ること、その裏には準備す  
ることのエネルギーも大変なことを痛感しまし  
た。まず卒業生128名の連絡先のわかる名簿の  
整理と参加者の確認が大変です。同級生で、すで  
に亡くなっている者が22人となりました。幸いに  
12年前の総会から事務局の幹事がすっかり名簿  
管理を引き継いでもらっていたことでスムーズに  
進めることができました。往復はがき79通を発送  
し、総会参加者は最終23名となりました。不参加  
者にも近況報告等のメッセージの返信をもらい、

総会次第に添  
付し、皆に送付  
しました。参加  
者は回を追うご  
とに減ってきて  
いますが、止め  
る声など誰もな  
く、次回は必ず  
参加するとの返  
信もあり、次回  
幹事も快く引  
き受けてもらい  
80歳の同窓会  
の再会を誓い散  
会しました。



瀬田工業高校電気科S39卒業同級会 令和4年11月4日

## ＼ 母校の写真部と交流 ／

# — 母校と同窓会の絆に思う —

佐野 一雄 (昭33全機)

三杉会の皆さんお変わりありませんか。

この3年間、ほとんどの行動に自粛を強いられ、今年で4年目になります。

そんな状況の中、昨年は待望の出来事がありました。それは、母校の写真部との交流です。

時は全国のコロナ感染者数が20万人を超える第7波のピークに近い8月5日のことです。

私が長年関わってきた写真に関して、母校の写真部と交流できることは嬉しく待ち遠しいことでしたから、期待と責任感が入り混じり、この危うい時での心配を抱きながらの開催だったのですが、その危惧は何処かへ、生徒達と楽しいひとりが過ごせホッとしたのです。

この手記は、その交流会の報告と少し自分の思考を含めてまとめたもので、三杉会の活動の一端となれば幸いと思いながら寄稿したものです。

ところで、三杉会の皆さんは母校にどれほど関心をお持ちでしょうか。事務局の方々の努力で年1回配付される会報によって、母校の様子と各支部活動の概要を知ることができます。

しかし毎号、三杉会会長から切実な協力依頼の文面がありますから、関心度は決して高くないようです。私自身5年前、母校に写真部があることを知るまでは、母校を尋ねることも関心を持つことも少なかったのです。

母校への関心度は人それぞれの体験や経験によって変わりますが、同窓の皆さんは社会を担う様々な体験者ですから、その体験が学業や部活動に反映できる仕組みがあれば、自ずと関心度は高まるでしょう。

昨年の第64号三杉会会報に、校長先生から「母校発展のために全教職員と同窓会が一つになって進みたいので本校へのご協力を」との文面があります。これは経済的な支援だけでなく教育的社会的交流を含んでのことでしょうから、生徒達との交流は極めて大切な要件であることを示しています。思いつく手近な交流は部活動にあると思われませんが、母校での部活動の位置づけや取り組み方に関わる問題でもあり、多くの課題があることも事実です。今回の写真部との交流のようにできることから始め順次改善を図って支援組織の形成を目指せば、この文面の目的とする母校の発展へと繋がるはずですよ。

実のところ、今回の写真部との交流は「もっと写真を上手に撮りたい、と生徒が言っているのを、話を聞かせてほしい」と顧問の先生からの連絡をいただいたのが切っ掛けですが、顧問の先生が清水先生から並川先生へ、そして現在の島名先生へと移って3年越しのことなのです。

待ちに待った交流の場とは言え初めてのことで、内容は「写真に関する基礎的なこと」、「写真の役割」、「適切な利用」に多くの時間をとりました。プロジェクトとスクリーンを準備していただいたので、プレゼンテーション形式の進行はスムーズでしたが、プレゼンター主体の話になったこと、生徒作品の

添削時間が短かったことが心残り、次回(あれば?)には改めねばならないと思っています。

今では、「誰でも、いつでも、どこでも」美しくきれいな写真が撮れます。きれいな写真が撮れた時、誰かに「見せたい」、「見てほしい」との衝動にかられるものですが、写真の部活動では、「きれいな写真」から、一歩先の「上手な写真」を目指すことになります。

ところで、「上手な写真」とはどのような写真を言うのでしょうか。今ではスマホやタブレットで容易にきれいな写真が撮れます。しかし、生徒達にとってきれいな写真は必ずしも「上手な写真」とは思っていないようです。そうなのです、きれいな写真が観る人の心を動かすとは限りません。

撮り手の思いや考えが観る人に「そうか、そうだったのか」と伝わる写真が「上手な写真」なのです。

皆さんはどのような時に写真を撮るのでしょうか。きっと、その場にいる人や気を引く事物に遭遇した時、記念に残す時でしょう。写真の役目はそれで立派に果たせています。でも少し考えてみますと、写真は文章に比べ格段に多い情報を含んでいますし万国共通のことでもありますから、画像をみて想像遅くするのが普通です。ですから、創造的情報が観る人の心に素直に伝わるのが「良い写真」で「上手な写真」と言いかえることができます。

良く聞く言葉「たかが写真、されど写真」なのですが、表現の仕方に個性が出て奥が深いと言われるのは「上手な写真」の難しさからです。

文化部の活動に勝ち負けはありません。運動部のように動的な感動はありませんが、静的な感動に満ち長く続けられる生涯活動の粋ともなります。

そこで、文化活動の意義をまとめてみますと「思考力の充実」、「観察力と表現力」、「応用適応力と伝達力」、そして「成果共有の喜び」が身につくことです。これらは全て社会人としての素養でもありますから、春秋に富む生徒達には【学知利功】の精神が養われることとなります。

それに、私共が体験する全ての活動や思考は繰り返すことで目標達成が叶うものですから、このような交流が継続され、同窓の様々な知識経験が教育の現場に反映される支援組織が生まれれば母校の発展に役立つはずと夢見ながら、そんな日が来ることを願って、この手記を閉じます。



最後に、写真部の皆さんへ

また近い日に身近な題材で写真の理念を語りましょう！

# 希望の光

硬式野球部 監督 小椋 和也 (平12年工電)

## 『はじめに』

ライトの港颯太(3年)がフライをグロープに納めた瞬間、一塁側スタンドは、誰も抑えることができない嵐のような大歓声に包まれた。31年ぶりの近畿大会出場を決めた瞬間だった。秋の大会のレギュラー陣、代打や代走、控え投手やベンチワークで支えた控え選手、悔しい気持ちを持ちながらも、大会中はベンチメンバーのために声を出して練習を盛り上げ、懸命にサポートしてくれたベンチ外の選手たち、そして部長をはじめ顧問の先生、コーチ陣、協力的にサポートしてくださる保護者会、OB会、今まで私と戦ってくれた教え子たちのおかげで今の自分があることを心から感謝し、今回のコラムを書かせていただきました。

## 『周囲の期待と実際』

春季大会、優勝候補で鈴木蓮(横浜 DeNA ベイスターズ)がいる滋賀学園戦、4-3で惜敗！

夏の大会初戦、センバツ全国準優勝、山田陽翔(西武ライオンズ)がいる近江高校との対戦で延長10回4-3で惜敗し、早くから新チームがスタートした。春、夏と2年生主体のチーム構成であったことから、多くの野球関係者やOBの方々から秋季大会の期待が高まっていた。しかしながら、関西、倉敷工業、市立和歌山、履正社、北陽、菰野、東播磨など甲子園常連校との練習試合では、レベルの差に圧倒され、近畿大会は厳しいだろうという夏休みを過ごしていた。

## 『何度もあきらめかけた3回戦 サヨナラ勝ち』

今大会、1番の山場になることを大会前に予想していた。ここ数年は、何度も決勝まで上がってきており、チームの成長に勢いが増している

立命館守山は、前チームから投げている加藤優芽 左投手(3年)と1年生ながら夏の大会を経験、140キロ台のストリートを持つ、杉本侖太郎 右投手(2年)と2人の好投手が存在していた。一方、瀬田工は4番の平田大樹(3年)が

立命館守山は、前チームから投げている加藤優芽 左投手(3年)と1年生ながら夏の大会を経験、140キロ台のストリートを持つ、杉本侖太郎 右投手(2年)と2人の好投手が存在していた。一方、瀬田工は4番の平田大樹(3年)が

新型コロナに感染し、後遺症も酷く入院してしまつた。一番チャンスに強い平田が抜けた瀬田工打線は、点数を取ることは難しいだろうと考えた。私は、守備のミスが出ると負ける、しっかりと守って終盤に持ち込むことをイメージしていた。初回に先制し、瀬田工の流れになると思われたが、3回に守備のミスと3連続四球によって3点を奪われ逆転を許してしまい、試合は立命館守山の流れとなつてしまつた。私は、とにかく後半まで粘り強く戦い、勝ち負けよりも接戦の試合展開を目指すことに切り替えた。思いの外、4回に追いつきそのまま3-3で延長戦へ持ち込むことになつた。延長10回表、エース吉田翔湧(3年)も力尽きたのか、タイムリーを許してしまつた。チェンジになつて帰ってきた選手たちには最後までわからないと励ましていたが、私はここまでかなと腹を括つた。10回裏、エース吉田のところへ代打を送つたが凡打となつた。しかし、ワンアウトから四球、セッター前とチャンスを作り、3番の竹内勇真(3年)が右中間へタイムリーヒットを放ち追いついた。延長11回表は、四球からピンチを招き、さすがに無理かなと思つたその後、1年生の杉本倅志郎(2年)が気持ちで無失点に抑えた。11回裏、先頭打者、6番主将の南井柊耶(3年)が右中間三塁打を放ち、これで勝つたと確信した。その後、7番港がセッター前を放ちサヨナラで勝利した。私は延長11回の死闘を終え、ほつとしていたが、周囲をよく見ると選手

たちは涙を流し、スタンドで応援している大勢の方が感動で涙をこぼしていた。

## 『4点ヒインドからのコールド勝ち 準々決勝』

前日の立命館守山戦で9回まで投げた吉田の疲労を考え、準々決勝の光泉は1年生の澁谷力輝(2年)を先発させた。はじめての公式戦ということもあり、かなりの緊張が伝わっていた。そこにつけ込まれた澁谷は、初回2点を許し降板した。杉本倅志郎(2年)、井上拓人(3年)と継投したが、2人とも乱調で、結局吉田をマウンドへ送ることになつた。3回4-0で負けていたが、盗塁、セフティスクイズ、エンドランと機動力がうまく稼働し、8回12-5と逆転コールド勝ちを納めた。

## 『開き直り』

秋季大会準決勝の朝、私は5時前くらいに自宅のリビングのソファに座っていた。今日の試合に勝てば近畿大会出場、負けたら近畿大会に出られないという、『勝てば天国、負けたら地獄』の朝だった。期待と不安が入り混じり、普通の精神状態ではなかつたことを自覚していた。5歳の双子と2歳の子供たちがしばらくすると起きしてきた。妻が朝は何を食べるか聞いてきたが、私はご飯が喉に通らず、水を飲むだけで一杯だつた。子供たちが朝食を済ませると、少しでも緊張を解そうと子供たちを連れて散歩へ出かけた。田舎のきれいな空気を吸いながら、楽しそうにはしゃぐ子供たちを見て少し気が紛れていた。そろそろ球場へ向かう時間だと思ひ帰ろうとしたとき、ふと思つた。

「今までベスト8は何度か来たけど、ベスト4まで来たのははじめて、少し前に進んだじゃないか。今日は、勝ち負けよりも今までやってきた泥臭い瀬田工の野球をして、声を枯らし、相手よりユニホームを汚して終わればそれでいい。」と聞き直つた瞬間だった。

## 『予想外の展開 近畿大会出場』

1年生大会初戦、水口東に完敗していた。水口

東は、足を絡めた機動力野球で非常にやりにくい相手だった。今日の試合は、かなり緊迫した戦いになる。終盤や延長戦で、どちらかに1点が転ぶかの試合展開を予想していた。先攻水口東、この試合のキーマンとしていた俊足の橋本琉生(3年)をヒットで出塁させてしまい、送りバント、盗塁で、1アウト三塁を作つてしまつた。3番打者が強いファーストゴロを打つたが、一塁手の北幸栄(3年)がうまく捌いて、この回を無失点で切り抜けた。その裏、1番の北が出塁し、盗塁でアウトとなつたが、2番の上林梓人(3年)がヒットと盗塁で二塁まで進んだ。3番竹内の犠牲フライで、ツーアウト三塁となつた。4番小辻薫(2年)は2年前にドラフト候補。現在創価大学で活躍している。は、ライト前のタイムリーを放ち先制した。この試合は、私自身が開き直つていたので、躊躇なく采配ができた。スクイズやエンドラン、トリックプレーなど、迷うことなく仕掛けることができた。そして、大技、小技がうまく回つて、予想外の展開でコールド試合となり圧勝した。そして、念願の近畿大会出場の切符を手に入れた。試合後、皇子山球場のダッグアウト裏の片隅で辻川元喜部長と言葉を交わすことなく握手をした。ここまで辛いことがたくさんあったが、辻川部長をはじめ、スタッフ陣と知恵を出し合いながらいろんな山を乗り越えてきた。私は、ミーティングルームで選手たちを集め、「ありがとう、良くやった。」と心から選手を称えた。三塁側の球場出口を出ると、瀬田工サインは大勢の人たちに出迎えられた。多くの方々から祝福され、中には、私に高校野球ファンの方からサインをください、好きな言葉も書いてください。」とまで言われた。私は、慣れないサインをして、『強気』と書いた。この日の最後のミーティングでは、嬉しさをいっばいの自分を隠し、生徒の気持ちをもう一度引き締めるために「明日の決勝は、優勝する。1位通過で近畿大会へ乗り込む。」と生徒たちに力強く伝えた。

『緊張感と安心感 決勝戦』

決勝戦は、前日のはじめての決勝進出という緊張感と近畿大会出場が決定している安心感もあり、精神的に程よい状態だった。生徒の様子も、昨日までの試合からの開放感、近畿大会へ出られる安心感があるのか、それほど緊張感は伝わらなかった。もう一度彼らを引き締めなければと思っていたが、試合は、はじめから最後まで彦根総合のペースとなり、優勝旗を手に入れることはできなかった。1ヶ月間大会が続く、対戦相手の研究とそれに応じた練習で心身ともに疲れ切っていた。特に3回戦から連日試合が続いたこともあって、相手のデータ収集するため、十分な睡眠時間は取れていなかった。甲子園常連校の監督は、本当にすごいと思った。決勝戦が終わったその日の睡眠は、10時間爆睡だった。(笑)

『近畿大会』

近畿大会の開幕4日前の10月18日に抽選会が行われた。相手は大阪2位の履正社と決定し、かなり強い相手となった。勝つ確率は低いことは理解していたが、しっかり守って、攻撃では足を使って攪乱させ、瀬田工の流れに持つべく初戦突破のイメージを持っていった。抽選会的时候は、履正社に決まったところで高野連の方々が辻川部長に『初戦勝ったら甲子園決まりや』と伝えられた。そのことを辻川部長から聞いた私は、さらに勝利への執着心が湧いてきた。大会会



場和歌山県紀三井寺球場は、はじめて使用する球場だったので、初戦1週間前にナイター練習に行った。控室や待機場所、室内練習場の確認と球場練習を行った。前もって会場を確認しておいたので、当日慌てることはなかった。

第2試合 履正社 - 瀬田工

第3試合 報徳学園 - 箕面学園

当日は、予定通り和歌山県紀三井寺球場へ着いた。バスを降りると高校野球ファンでいっぱいになっており、写真や動画を撮られたりしていた。有名人のような扱いを受け、勘違いしてはいけないと気持ちを抑制していた。選手はそんな状況にも浮ついた感じがなく、案外落ち着いている様子だった。室内練習場で高校野球ファンが見ている中、ウォーミングアップを終え、両校の部長、監督、主将がミーティングルームに呼ばれた。先攻後攻を決め、注意事項を聞いた。履正社の多田監督は、新チームから変わったばかりの監督だが、コーチ時代に全国制覇も経験している実績のある監督である。余談であるが、多田監督

の義理のお母様と私の妻は、同じ職場で働いていたこともあり、普段の練習試合から本当によくしていただいている。お人柄の良い多田監督も絶対に落としてならぬ相手瀬田工、絶対に勝たないといけない相手というプレッシャーが私にもかなり伝わっていた。その反面、私は案外落ち着いていて、高野連からの指示、主審からの注意事項を聞き、球場の雰囲気を感じ取ることができていた。それよりも多くの高校野球ファン、瀬田工の応援に駆けつけてくれた人々の中で監督として試合ができることに喜びを感じていた。ちなみに、高校野球大好き芸人かみじょうたけしも来ていた。

先攻履正社、後攻瀬田工。初回プロ注目目のセンター西稜太(3年)に右中間を破る。三塁打を打たれた。あの時の打球音とピンポン玉のように

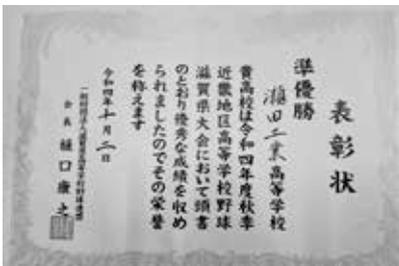
フェンス側まで飛んだ打球の勢いは、試合を決定付けるような強烈な印象だった。初回は、ツーアウトまで1失点で抑えたものの、ツーアウトから3失点で初回は、4失点からのスタートとなった。その後、1番の西、履正社のエース、増田壮(3年)からもホームランを打たれ、あれよあれよと7回表で10-0となった。7回表が終了し、ベンチ前でミーティングをした。「こんなにみんなが応援してくれている。俺たちはまだ何もしていない。滋賀県2位校だぞ。意地を見せよう、もう勝ち負けじゃない。俺たちの野球を見せよう。」と選手に言った。4番の小辻が四球で出た。そこへ代走平野を送り、平野は盗塁し慌てたキャッチャーが後逸したところをすかさず三塁へ走りセーフ。7番の平田(本来4番)に回ってきた。退院はしたものの万全の状態ではない平田に私はいこう言った。「ここまでみんながお前を連れてきてくれた。ここで恩返ししなければ、どこでするんだ。」と言ってバッターボックスへ送った。平田はレフト前を打って1点を獲得した。スタンドは、勝つたかのように盛り上がった。平田のところへ代走南大吾(3年)を送った。次の打者、宮崎弘大(3年)が四球を選び、2アウト・二塁、代打松田海斗(3年)が三遊間を抜けるレフト前ヒット、二塁ランナーの南は間髪一髪ホームでセーフとなり、2点目を獲得。しかし、次のバッターがサードゴロになり、31年ぶりの近畿大会は初戦敗退となった。

『最後に』

私は、本当にいい経験をさせていただいていると思っている。3年前のドラフト候補であった小辻鷹仁(創価大学)の存在を知り、集まってきたのが秋の近畿大会を決めた3年生の次の目標は、夏の大会で必ず甲子園へ行く、小辻鷹仁の弟、小辻薫とともに固まって入学してきた2年生(1年生大会滋賀県3位の)次の目標は、2年連続の近畿大会へ、秋の近畿大会を見て入学した期待値の高い新1年生の目標は、春夏甲子園

を狙って頑張ってほしいと考えている。

本校は、県内で数少ない黒土でもないグラウンド、室内練習場もなく、決して恵まれない環境であるが、いろんなことを工夫し、スタッフたちと知恵を出し合いながらみんなで作ってきた。また、本来ならライバルとなる県内外の多くの監督さん、指導者の方々から「近畿大会出場おめでとう。公立高校に希望を与えた。勇気をもらった。」とうれしいお言葉をたくさんいただき、本当にうれしかった。そして、在校生と卒業生の選手や保護者の方々、県内外の高校野球関係者の方々はもちろんのこと、いつも応援してくださる本校の先生方、高校野球を途中で断念してしまった教え子たち、中学野球の指導者の方々、大学野球、社会人野球、プロ野球のスカウトの方々、私は高校野球によって多くの方々と知り合い関わっていたのだとおかげで、今の私がある。『希望の光』が見えてきた今、これから43年前の甲子園ベスト4を目指して頑張りたい。拙い文章であります。が、最後まで読んでいただき、誠にありがとうございました。瀬田工生は、野球部だけでなく他の部活動、全校生徒が古い学舎で、歴史を繋いでいます。これからも温かいご支援ご声援をお願い致します。





2023年度 三杉会役員・顧問・事務局

令和 5 年 4 月現在

Table listing members and staff of the Sanaki Club, including names, positions, and graduation years.

令和 4 年度事業報告

Report of activities for the 2023 fiscal year, including dates and descriptions of events like the general meeting and homecoming.

令和 5 年度事業計画 (案)

Proposed activities for the 2024 fiscal year, including dates and descriptions of planned events.

令和 4 年度通常会計決算書

(R4.4.1 ~ R5.3.31)

Income Statement for the 2023 fiscal year, showing income and expense items with their respective amounts and changes.

令和 5 年度通常会計予算 (案)

(R5.4.1 ~ R6.3.31)

Proposed Income Statement for the 2024 fiscal year, showing budgeted income and expense items.

令和 4 年度積立会計決算書

(R4.4.1 ~ R5.3.31)

Statement of Financial Position for the 2023 fiscal year, detailing accumulated funds and their changes.

令和 5 年度積立会計予算 (案)

(R5.4.1 ~ R6.3.31)

Proposed Statement of Financial Position for the 2024 fiscal year, detailing budgeted accumulated funds.

監査結果報告書

Text regarding the audit results of the 2023 fiscal year, confirming the accuracy of the accounts.

令和 5 年 4 月 1 日 監事 田井中 勲 監事 島田 潤一

事務局からお願い 平素は、同窓会三杉会の活動にご理解ご協力いただき、また、ご支援を賜り心からお礼申し上げます。

令和5年6月吉日

会 員 各 位

滋賀県立瀬田工業高等学校同窓会「三杉会」

会 長 奥 村 功

## 瀬田工業高等学校同窓会「三杉会」定時総会開催のご案内

深緑の候、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、本会の活動に格段のご高配を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、下記により「三杉会」定時総会を開催いたしたいと存じます。万障お繰り合わせの上、ご出席いただきますようお願いいたします。

尚、準備の都合により恐れ入りますが、6月19日必着でご出席のご返事を同封の葉書にていただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 記

#### 日 時

令和5年7月2日（日）

午前10時より

#### 場 所

瀬田工業高等学校内 三杉会館

#### 議 題

- (1) 令和4年度事業報告・会計決算報告
- (2) 令和5年度事業計画・会計予算案
- (3) 三杉会役員改選について
- (4) その他

定時総会終了後、ご希望の方は、実習工場設備を見学いただくこともできます。